

「地域主体のまちづくり」の担い手づくりに向けて



榊原 進

NPO 法人都市デザインワークス代表理事

1. 都市デザインワークスの活動

都市デザインワークスは、仙台に根を張る土着系プランナー集団として、「地域主体のまちづくり」を実践・支援している。2002年の設立当初から「せんだいセントラルパーク・プロジェクト」に取り組む。仙台都心を流れる広瀬川流域の自然環境と都市機能を官民協働で総合的に計画・整備・運営することで、市民や観光客に多彩な楽しみを提供しようという構想で、構想をまとめたガイドブックの出版、冊子やマップの作成、ガイドツアーやフォーラムの開催など、市民参加を得ながら、その魅力を発信する活動を積み重ねている。

また、まちづくりコンサルタントとして、地域まちづくり計画の策定支援やワークショップの企画運営なども各地で実績がある。

震災後、復興支援団体が集うネットワーク会議に参加し、被災地の状況や必要な支援等の情報を交換していた。そこで、復興支援団体の多くは復興施策・事業や震災復興計画について知らずに活動していることが分かり、被災市町の震災復興計画の施策・事業を支援活動のテーマで分類整理し直し、復興支援団体に提供した。

現場としては、仙台市南蒲生地区の現地復興まちづくりの支援を続けている。平成24年度は、住民同士の話し合い等を支援し「南蒲生復興まちづくり基本計画」の策定を導いてきた。今年度からは、計画に位置づけられた3つのプロジェクトのうち地域主体で進める実践活動をサポートする。

2. 担い手づくりに向けて

「地域主体のまちづくり」には、住民だけではなく、行政との協働、各分野の専門家やNPO等の支援が必要となることは言うまでもない。地域、行政、専門家が、それぞれの役割を十分に果たすためには、次のことが重要と考えている。

●地域：次代を担う若手が活躍できる場を！

10年先を見据えたまちづくりでは、将来を担う若手の参加が必要となる。南蒲生では、復興計画原案の検

討を若手も参加する復興部が担い、町内会が計画を承認する仕組みとした。復興部若手メンバーが他の若手と有志グループを立ち上げ、定期的に会合を持ち、様々な提案を計画に反映するとともに、自分たちができる事を実践に移している。町内会役員世代も、それを応援し、プロジェクトの1つを任せている。若手に活躍の場を与え、スムーズな世代交代を図ることで、持続的なまちづくりが可能となる。

●行政：地域への参加を進め住民の信頼を！

南蒲生復興部の会議やワークショップには毎回市担当者が出席し、住民の意見や不安、苦情を直接受け止めていた。住宅再建に関する要望へは対応できない場合がほとんどであったが、まちづくりの面では行政との連携・協働の可能性を模索し、地域の提案に応えるケースもある。事業が具体になると縦割りの壁が見え隠れするが、“打てば響く”行政の姿勢が住民の信頼を得て、地域主体のまちづくりを進める上で必要な条件となる。

●専門家：土着系プランナーの育成・継承を！

住民にとって、まちづくりの相談を気軽にできる土着系プランナーの存在は大きい。かつて仙台でも多くの先輩方が活躍し、筆者は学生時代に鍛えていただいた。確かな技術と豊富な経験を持ち、地域事情に明るく、地元行政に信頼を寄せられていた。地域に軸足を置きつつ、行政の立場も理解し、客観的な立場からの確かなアドバイスしていた。

復興まちづくりの現場は、プランナーの育成の場にもなる。1人でも多くのプランナーが独り立ちし、東北の地に腰を据え、地域の伴走者として活躍してほしい。

榊原 進（さかきばら すずむ）

2002年8月のNPO法人都市デザインワークス設立と同時に代表理事に就任。仙台を拠点に、住民主体のまちづくりの現場で活動。震災後も、多様な主体と連携・協働し、復興まちづくりを支援している。